

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第96回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第37回総会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿
- ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

◇日本惑星科学会第96回運営委員会議事録

期 間：5月21日(月) 18:30 - 20:30

場 所：連合大会会場202号室

運営委員会委員：

(出席) 渡邊誠一郎, 田近英一, 倉本 圭, 荒川政彦, 永原裕子, 林 祥介, 中村昭子, 橘 省吾,
中本泰史, 並木則行, 三河内 岳, 小久保英一郎, 平田 成, 千秋博紀, 荒井朋子, 城野信一,
小林直樹, 佐々木 晶, はしもとじょーじ

(欠席: 委任状有) 井田 茂, 中村良介, 渡部潤一, 高橋幸弘

オブザーバー：

大槻圭史, 保井みなみ(神戸大LOC), 玄田英典(連合大会プログラム委員), 高橋芳幸(神戸大学),
鈴木絢子(惑星科学研究センター), 出村裕英(合津大学)

議 題：

1. 会計第11期上期決算

荒井財務専門委員長より, はば予算とおりの執行との報告がなされた. 一般会計では, 滞納分の会員費納入が20万円程あり, 秋季講演会が30万円程黒字であり, 管理費も40万円程少なく抑えられ, 昨年よりも70万円程繰越金が多くなった. 特別会計では, 2011年秋季講演会授賞式に参加されなかった最優秀研究者賞受賞者の賞金5万円が繰り越されているが, 明日の総会で渡される. 一般会計630万円程度, 特別会計15万円程度が資産合計である.

会計第11期上期決算は了承された.

2. 会計第11期下期予算執行状況報告

荒井財務専門委員長より報告がなされた. 2011年秋季講演会36回総会で承認された予算案に対し, 管理費予備費7千円の誤記を訂正する. 自然災害に伴う会費免除措置で一般会員7名, 学生会員2名の合計9名の会費が免除された. 予算案に追加で2010年度サーバー移行費用のうちイーサイドに未払いであった分を支払う. 今年度も匿名の方から寄付金10万円いただいた.

会計第11期下期予算執行状況報告は了承された.

3. 第11期上期活動報告ならびに第11期下期活動計画

平田総務専門委員長より活動報告書と計画書について説明があり, 内容は了承された. 学会推薦による各賞受賞が例年よりも多い.

4. 日本印刷との契約について

荒井財務専門委員長より、遊星人の印刷契約の見直しをおこないたい旨の説明がなされた。現在の契約では、価格についての取り決めがなく、印刷所からの請求書に基づいて言い値で支払いをおこなっている。価格の算出根拠が明らかにされていないため、請求書が来るまで支払い金額がいくらになるのかわからない。価格の算出根拠を明らかにした契約を新たに結ぶ方向で、はしもと編集長と荒井財務専門委員長が印刷会社と交渉する。

5. 今年度寄付金の用途について

荒井財務専門委員長から今年度も匿名の方から寄付金10万円いただいたと報告された。92回運営委員会で決めたように、発表賞の賞金とさせていただきますこととなった。

6. 賛助会員特典について

千秋情報化専門委員会委員長から、賛助会員特典についてWebに掲載すると良いとの提案がなされた。賛助会員特典は、学会誌(年4号、各1部)進呈、学会誌への広告の無料掲載(2年目以降、毎年1ページ)、活動報告書(年度末)進呈、秋季講演会への参加費免除、秋季講演会アブストラクト集への名前掲載、学会員への情報提供メーリングリスト(oaml, newsletter)の希望アドレスへの配送等が挙げられる。詳細については運営委員会メールで確認することとなった。

7. 2011年度最優秀研究者賞について

佐々木選考委員会委員長から審議過程と候補者に関する報告があった。選考理由について運営委員より疑義が出され、確認のため、選考委員会で再度議論して結論を出していただくこととなった。このため、総会での受賞者発表は延期することとなった(本記載内容の一部は5月22日総会前に行われた運営委員による会合での合意事項を含む。)

8. 学会賞選考委員の入れ替えおよび学会賞内規の改定について

平田総務専門委員長より学会賞選考委員の入れ替わりについて説明がなされた。毎年半数入れ替えで、2011年度委員のうち継続が野口高明会員、岡田達明会員、関根康人会員(幹事)、小林直樹会員。2012年度委員として、林祥介会員(委員長)、奈良岡浩会員、大槻圭史会員、城野信一会員が推薦され、異議なく承認された。

今年度の募集から研究者賞の賞金が廃止されることにともない、日本惑星科学会最優秀研究者賞内規(賞)第3条の2を「2. 本賞は、賞状と賞金を併せて授与する」から「2. 本賞は、賞状と副賞を授与する」へ改訂。今後のことを考え同じく日本惑星科学会最優秀発表賞内規(賞)第3条の2を「2. 本賞は、賞状と賞金を併せて授与する」から「2. 本賞は、賞状と副賞を授与する」へ改訂する。改訂は異議なく了承された。

9. 2012年秋季講演会・学会賞実施案等

大槻神戸大LOC総務より報告がなされた。2011年秋季講演会時の報告から大きな変更はなし。異好幸さん(JAMSTEC)による一般講演会を開催する。すでに承認されたように神戸大学との共催であるため、会場費は無料となった。学会からの支援なしの予算で済みそうである。懇親会も2011年度と同じ程度の費用で行う。昼食場所が付近にないため、弁当申し込みを参加登録時点で行う必要がある。

Q. ポートライナーは朝満員電車だが、時間はずらせるか？

A. 時間をずらすことはできないが、ポートアイランドに泊るという方法もある。

10. 2013年秋季講演会について

小久保天文台LOC総務より報告がなされた。実行委員長渡部潤一、総務小久保英一郎の体制で行う。10月末から11月初旬に石垣島で開催の予定。市民会館で行う。台風の時期を避ける。会場付近に安い宿が多く宿泊には問題はない。VERA、石垣島天文台の施設見学も含めて行いたい。

11. 連合大会プログラム委員からの報告

玄田連合大会プログラム委員から、次期プログラム委員として玄田英典会員(正、東京大学)、山田耕会員(副、早稲田大学)、コンビーナーとして鈴木絢子会員(正、神戸大学)、奥住聡会員(副、名古屋大学)が推薦

され、異議なく承認された。

12. 連合関係

永原日本地球惑星科学連合連携専門委員会委員長から報告された。2011年12月公益法人化した。惑星科学セクションに関係する代議員、理事、ボードについて、顔ぶれと相互関係の説明がなされた。遅くとも6月から新体制になる。

13. 連合ジャーナルおよびEPSの今後について

永原日本地球惑星科学連合連携専門委員会委員長、田近副会長、および三河内欧文誌専門委員会委員長より状況の説明がなされた。文科省の科研費による学術誌支援方針に転換があった。国際発信力を高めるため、電子化されたオープンアクセスジャーナル、大きな学会や連合のように学会が連携して新しく発刊するジャーナルに集中的に5年間支援される。連合ジャーナルはレビュー誌の方向に進んでいたが、この方向に合わせてEGU型あるいはAGU型の論文誌への変更も考えている。従来型の学術誌は5年で採択されなくなる。EPSのような小さなものは現状維持では助成されなくなる。新しい取り組みが必要。EPSで可能性があるのは国際情報発信強化A(採択件数3件)とオープンアクセス(採択件数従来の7割)である。募集までに基本方針を決めなければならない。EPSは国際情報発信強化Aに応募するか、連合ジャーナルとの合併するか、JpGUと綿密に連絡し、メールアドレスで意見を交換していくこととなった。

14. 惑星科学の現状と将来について

渡邊会長より、惑星科学の枠だけではなく周辺を巻き込んで惑星探査のロードマップを作り、惑星科学全体のデザインをしていかなければならないことが述べられ、運営委員の間で議論が行われた。

惑星探査を意識した数値モデリングによって探査データの活用できないか、大学と連携して学会として若手へのプロモート活動ができないか積極的に検討したい。各大学でキーパーソンを横につないで、どのように探査を支えていくか話をしたい。将来のビジョンを出して行く必要がある。

CPSは将来を考える場となる組織であるが、予算用途は立っていない。月曜日の夕刻のインフォーマルなネットワーク会議等、場を作るのは進めつつあり、今後も続けたい。場の維持に協力いただきたい。

鍵になる人を育てないといけない。長い目で見ればちゃんと成功すると、いいほうへ発信したい。

途中で飽きないで地道な活動をやり続けるのが大切である。定期的に惑星探査とその周辺の人たちと議論を地道に積み上げる必要がある。

惑星科学では、人が宇宙研に固まっているわけではない。まだまだインタラクションが足りない。

総会でも会長より提案を行い、今後も検討をすすめていくこととなった。

惑星探査に閉じず、惑星科学全体で探査を位置づけるために、将来計画委員会でも「来る10年」と並行して惑星科学のロードマップ検討を行う。

15. その他

平田総務委員長より、第37回総会の議長として神戸大学の保井みなみ会員、書記として国立天文台の山田竜平会員が推薦され、了承された。

報告：

1. 入退会状況について

平田総務専門委員長より入退会状況について報告がなされた。賛助会員に株式会社五藤光学研究所に加わっていただいたが、一般財団法人リモート・センシング技術センターが退会予定で来年度は5社に戻る。

2. 遊星人の発行状況

はしもと編集専門委員会委員長よりメールで報告されることとなった。

3. 学会サーバー関係の状況について

千秋情報化専門委員会委員長よりメールで報告されることとなった。

4. 月惑星探査の来る10年兼用状況報告：第二段階終了と第三段階のキックオフ

並木将来惑星探査検討グループ長より報告された。2月に第2段階の会合を行い、13の提案の吟味を行った。その後、レビューレポートをまとめて各提案者に送り、連合大会での報告と遊星人に投稿を依頼した。これで第2段階は終わり、4月末に第3段階に入った。第3段階委員は惑星科学以外の方も含んでいる。第3段階のキックオフミーティングで、惑星科学周辺の委員から、なぜ13の提案がまとまらないのか問題とされたことが述べられた。第2段階そもそもまとめることを目的としていないのだから、まとめるのであるならば、第3段階の方針転換が必要であるとの意見が出た。第3段階として一つを選ぶようなことはせず、別に次段階にある一本化を意識をし、探査を主導して進められる組織を作りあげる作業の両方を進めないといけないとの意見が出た。

◇日本惑星科学会第37回総会議事録

日 時：5月22日(火) 12:30 - 13:30

場 所：日本地球惑星科学連合2012年大会会場201A号室

〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1 幕張メッセ国際会議場

正 会 員：600、定足数：60

参加人数：68

委 任 状：118通(議長117、林祥介会員1(欠席のため無効))

1. 開会宣言

平田総務専門委員長が開会を宣言。

2. 議長団選出

運営委員会からの推薦で議長に保井みなみ会員、書記に山田竜平会員が選出された。

3. 議事

3.1. 第11期上期(2011年度)活動報告

・基調報告

渡邊会長から第11期上記の活動報告がなされた。

- ・事業概要
- ・2010年度最優秀研究者賞、2011年度最優秀発表賞の報告
- ・フロンティアセミナー概要
- ・学会推薦による会員の各種受賞
- ・はやぶさ2タスクフォース立ち上げの報告

・会計報告

荒井財務専門委員長から2011年度上期決算報告がなされた。

- ・一般会計収入：秋季講演会予定より20万円多かった。
- ・一般会計支出：秋季講演会予定より10万円少なかった。
- ・学会賞特別会計：今総会で小林浩会員への最優秀研究賞の5万円を支払う。

・会計監査報告

柳沢会計監査幹事より、関谷会員とともに監査の結果収支決算に誤りのないことを確認したと報告された。

・2011年度最優秀研究者受賞者発表

渡邊会長より最優秀研究者は現在検討中であり、現段階での発表はしないと報告された。

・採択

第11期上期活動報告の採択が行われ、賛成185(うち出席者:68)、反対:0、保留:0により採択された。

3.2. 第11期下期(2012年度)活動方針

・基調方針

渡邊会長より事業概要・活動計画について説明

- ・フロンティアセミナーは2012年9月11日－14日に開催
- ・議案書にある事項だけでなく、その他の学会活動に関する認識、今期の方角性が説明された。
 - 探査を内包する分野の構造に関する説明
 - JAXAを取り巻く状況の説明
 - 惑星探査推進、データ利用、若者のプロモート活動に対する今期の方角性の説明

・各種専門委員会活動方針

並木会員から「月惑星探査の来たる10年」の活動、状況報告がなされた。第二段階の終了と第三段階のキックオフ。第三段階のパネル委員が選出された。

・2012年度予算の誤記修正と活動状況の報告

荒井財務専門委員長より今期の財務の活動状況と予算の誤記修正報告。予備費として7000円が計上されているが、今期は0であるので、誤記である事が説明された。2012年度会費免除対象の報告。匿名の方より10万円の寄付があった。寄付は最優秀研究賞の賞金に利用する。

・質疑応答

矢野会員より渡邊会長の惑星探査ロードマップに対する質問があった。ロードマップは今季中にまとめるのか？来たる10年の第三段階を進めつつ、そのアウトプットをベースに学会全体での議論を続けて、ロードマップの方角を固めていくとの渡邊会長からの回答があった。

来たる10年のレビューの選考過程をよりオープンにするべきとの意見があった。また、若手だけでなくシニア研究者も探査データを解析して成果を出して、世界に認めさせる事が重要との意見があった。研究会が多すぎるので、参加する人はその意義を理解する事が重要との意見があった。

・採択

第11期下期活動方針の採択が行われ、賛成185(うち出席者:68)、反対:0、保留:0により採択された。

4. 報告事項

4.1. 秋季講演会について

大概神戸大LOC総務より2012年秋季講演会について説明があった。10月24－26日、神戸大学総合研究拠点コンベンションホールにて開催。神戸大学110周年記念事業として実施。それにより会場費が無料になった。一般講演会は10月27日神戸市立青少年科学館にて実施。巽好幸氏に講演を依頼した。締め切り、日程に関する説明があった。

小久保国立天文台LOC総務より2013年の秋季講演会についての説明があった。石垣島の市民会館にて実施予定。台風シーズンが終わった、10月末から11月頭に実施予定。

4.2. 2010年度最優秀研究者受賞式

小林浩会員に対して2010年度最優秀研究者賞の受賞式が行われた。

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2012年9月25日までに、賛助会員として本学会にご協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

アメテック株式会社カメラ事業部
株式会社五藤光学研究所
シャープ株式会社
有限会社テラパブ
株式会社ニュートンプレス
一般財団法人リモート・センシング技術センター

◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

(a)場所, (b)主催者, (c)ウェブページ/連絡先など.

転記ミス, 原稿作成後に変更等があるかもしれません. 各自でご確認ください.

2012/09

26-28 第36回結晶成長討論会

- (a)国民宿舎虹の松原ホテル(佐賀県唐津市東唐津4丁目)
(b)日本結晶成長学会(日本惑星科学会協賛)
(c)http://www.jacg.jp/jacg/japanese/frame_main/13/toronkai_36/index.html

2012/10

04-05 可視化情報学会全国講演会(姫路2012)

- (a)姫路商工会議所 (b)可視化情報学会(日本惑星科学会協賛)
(c)http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/vsj_himeji2012/index.html

24-26 日本惑星科学会2012年秋季講演会

- (a)神戸大学統合研究拠点ポートアイランド, 兵庫県, 神戸市
(b)日本惑星科学会主催
(c)https://www.wakusei.jp/meetings/fall_meeting/

2012/11

07-09 第53回高圧討論会

(a) 大阪大学会館(大阪大学豊中キャンパス・大阪府豊中市)

(b) 日本高圧力学会(日本惑星科学会協賛)

(c) <http://www.highpressure.jp/forum/53/>

2013/06

02-09 第29 回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (ISTS)

(a) 名古屋市国際会議場 (b) 第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム組織委員会・日本航空宇宙学会(日本惑星科学会協賛)

(c) <http://www.ists.or.jp/2013/>